



犬追物御覽記

4曾  
600  
193













まじりたるの良のさふさふとて候の役本と梅と曰  
此の末久日創への西の流の流の席とて見たと  
候はる由ありけり候へは西の流の流の流と候り  
てかく候りたるは候はる由ありけり候へは西の流の流の流と候り  
合衆の流の流の流と候へは西の流の流の流と候り  
の候と二三とて候へは西の流の流の流と候り  
まじりたるは候り候へは西の流の流の流と候り  
とて候りたるは候へは西の流の流の流と候り  
候り一とと候り候へは西の流の流の流と候り  
候り候り候へは西の流の流の流と候り

但候り候へは西の流の流の流と候り  
候り候へは西の流の流の流と候り  
又て候へは西の流の流の流と候り  
日一候へは西の流の流の流と候り  
と候へは西の流の流の流と候り  
候り候へは西の流の流の流と候り  
候り候へは西の流の流の流と候り  
候り候へは西の流の流の流と候り  
候り候へは西の流の流の流と候り  
候り候へは西の流の流の流と候り



































又馬より下りて雷と候し、  
北の界く、ふるふふるは、  
と心也

治津源流あり 一正 治津源流あり

徳田又七年 治津源流あり

お国志を森 治津源流あり 一正

と升糸舟 行舟糸を信

治津源流あり 治津源流あり

吉田長官氏 治津源流あり

治津源流あり 治津源流あり

挿見 治津源流あり

治津源流あり 治津源流あり

之翁家上りの十二路南より下りて、  
くちのり所西方の十二路、  
南より西の十二路、  
向い南より西の十二路、  
て上りの十二路、  
見嘆次、  
南のち、  
小海、  
の、  
喚次、



之敷より東より北に中より南に馬場より北に  
其のく横見西大なるの。雷く大と一足り響く  
ありけり横見喚次并日池の結成より上より白  
糸俣可交り方二なるくのかとハ腰糸際を  
上り橋夫比大外よりとけり方三交りく外の大  
うりありて長中して中橋うりりけり又七を  
ありけり終り

次は江 かねて定めく中より矢らりく北に響くはき

湯原市正 湯原中巻

湯原湯力 二足 山田湯丸舞

湯原七系 湯原長門

湯原六系 仁礼左近

湯原五系 村上左系

入妻院を 村上内化 一足

<sup>権見</sup>湯原又なる <sup>堂見</sup>湯原中巻

茶方次より十二湯南より大徳のまうりく北に響く  
ありけり十二湯神のまうりく南より東の  
上平十二湯響く向の南の下より一足り響く  
ありけり十二湯響くありけり十二湯響くありけり  
十二湯響くありけり十二湯響くありけり十二湯響くありけり



































